

南北に若干長い楕円形の岩礁で西部が深く他の三底が浅い。東部は遠浅型に軟礁内に入り込んで安謝に向い、開くC字型の形を見せている。礁上は平坦で礁下は造礁珊瑚が点散し、礁間には粗砂がある。

(d) 藻類について

(3)の地点より図示の通り無人草の棲息有無を秋行調査したが見当らなかつた。藻類は極めて少くミル、アミジグサ、ウブゲノリ等である。

(e) 無人草採育試験 藻地の有無について

干潮時4尺位水深の礁間が多く実施地として使用出来ると思われるが、船のかがりが悪く幾分風がある場合には不向と思われる。

(f) ヲウの棲息状況及身入について

ナガウニは産するがシラヒゲウニは少い。シラヒゲウニは総約80%で卵は有するが粒は粗く身入は少い。此の外ナガワウニも棲息するが極めて少く砂上コース図上2個しか見受けなかつた。

(g) その他

貝類ではヒメシヤコ、レイシ類が多かつた。

2 貝類繁殖地調査 1957年7月29日

(1) 南風原地先 (島内の凹所及ホワイトビーチ寄りの傾斜地帯)

該地先干潮線上の砂質部の傾斜は極く緩かであるが干潮線下の傾斜は急となり、30度位で深度を増している。此の傾斜地の水深(干潮時)3尺以降からは泥分が多くなり、深度を増すと共に泥分も多くなり最深部は泥の対細砂+になっている。貝類の餌料となる硅藻類もP-netにより採取出来るが、底質と餌料の2点から見た場合、傾斜地帯の泥分の少い場所であれば藻貝の棲息も可能と思われるが、淡水の注入少く且つ比重が高いため藻貝の産地条件を具備しているとは云えない。

然し同地附近には右条件の処が相当面積あると推定され、移植して繁殖するとせば相当の生産を挙げられると考えられ、仕切の繁殖の場合垂下式を採れば傾度の高い所でも繁殖出来る等の例もあり、試験的に移植して見ることも良い事だと思われる。

比重1.027、Plancktonは視察類目に対し硅藻類2倍の割合で硅藻類の主なるもの次の通り

Flagellaria cylindrica 多し。Chaetoceros SP 特多し、